



「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー

令和6年度

特別史跡安土城跡発掘調査成果報告会

プログラム

14:00～15:00 「令和6年度天主台周辺地区の発掘調査成果」

大崎康文（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課主幹）

15:00～16:00 「安土城主郭部の構造」

岩橋隆浩（滋賀県文化スポーツ部文化財保護課主幹）

日 時：令和7年（2025）2月24日（月・祝） 14:00～16:00

会 場：コラボしが21

滋賀県大津市打出浜2-1

主 催：滋賀県（文化スポーツ部文化財保護課）

発行日：令和7年（2025年）2月24日

編集・発行：滋賀県文化スポーツ部文化財保護課

〒520-8577 滋賀県大津市京町四丁目1番1号

TEL077-528-4678 FAX077-528-4956 E-Mail castle@pref.shiga.lg.jp

URL <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/bunakasports/bunkazaihogo/>

令和6年度天主台周辺地区の発掘調査成果

～発掘調査によって明らかになった伝本丸取付台～

2025.2.24 「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー

令和6年度特別史跡安土城跡発掘調査成果報告会

滋賀県文化スポーツ部文化財保護課 大崎 康文

1. 安土城と本丸取付台

(1) 安土城について (図1)

- ・安土城の位置と立地の特徴
- ・築城から完成そして・・・
 - 天正4年(1576) 築城開始
 - 天正6年(1579) 天主完成
 - 天正10年(1582) 本能寺の変
 - 天正13年(1585) 八幡山城の築城により廃城
- ・本能寺の変後の安土城
 - 安土城はすべて灰燼に帰したのか？
 - ⇒主郭部のみが焼失した

(2) 廃城後の安土城

⇒廃城後は惣見寺によって維持管理がおこなわれてきている

- ・調査整備の記録
 - ①昭和2年～4年：史蹟標柱、制札、案内板、境界石柱の設置
 - ②昭和4年～6年：城内通路石階の改修
 - ③昭和35年～50年：主郭部の石垣修理
 - ④昭和53年：安土城跡実測図の作成
 - ⑤昭和54年～58年：安土城南麓の仮整備
 - ⑥平成元年～：平成整備20年計画
 - ⑦令和5年～：「幻の安土城」復元プロジェクト
- 令和の大調査開始！！

(3) 伝本丸取付台について (図2)

- ・伝黒金門より内側に位置し、安土城の中核部にあたる主郭部にあたる
- ・天主台の直下に位置し、伝本丸から一段高い場所に位置し同じ高さには、伝二ノ丸、伝三ノ丸が位置する

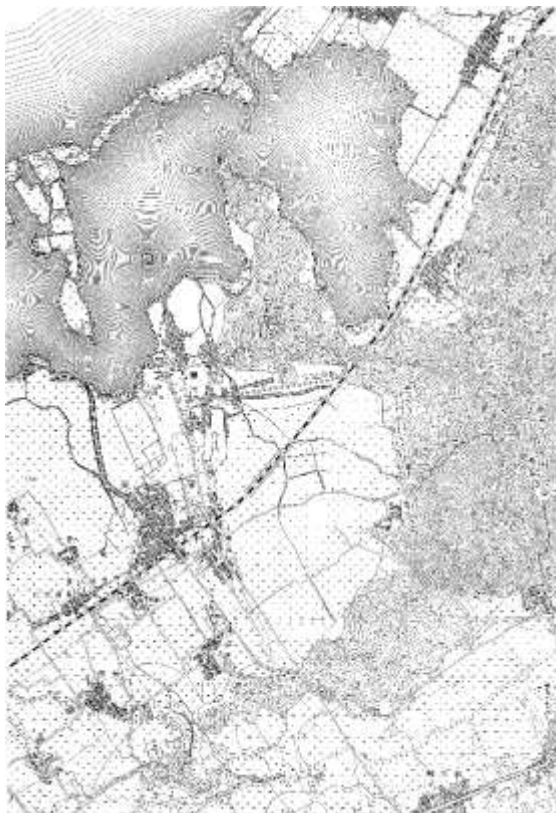


図1 安土城跡の位置
上：現在の地形図
下：明治26年の地形図

2. 伝本丸取付台の発掘

(1) 発掘の目的

①「幻の安土城」復元プロジェクト

- ・謎に包まれた安土城の実像を解明し、目に見える形にすることにより、安土城の価値・魅力を発信し、県および地域の盛り上がりにつなげる

1. 安土城の実像解明と保全
2. 安土城の見える化
3. 機運醸成の3本柱

⇒特別史跡安土城跡の価値を将来に向けて保存・継承していくため、安土城跡の実態解明に向けた調査・研究、史跡としての特性や立地環境を踏まえた環境整備を行う

②伝本丸取付台の来歴

- ・昭和の石垣修理：石垣の積み直しを行う
- ・平成の大調査：部分的に確認調査を行い礎石列を確認する

⇒整備や発掘が部分的に行われてはいるが、公開エリアになっているのは一部（東半）のみ

⇒天主にとまなう資料の発見を目指すとともに、天主台の整備に向け、整備実施設計の資料を得るため、天主台周辺（東～北側部分）の発掘調査を実施

(2) 既往の調査について

①昭和の石垣修理

- ・昭和40年と昭和46年～50年にかけて伝本丸取付台周辺で石垣の積み直しが行われる

⇒伝本丸取付台を構成する石垣はほとんどが昭和に積み直されている

⇒天主台は積み直しが行われておらず、北東面に関しては土石の除去も行われておらず詳細が不明のまま

②平成の調査

- ・伝本丸取付台では確認調査が実施されており、礎石列が確認されているが本格的な発掘調査は実施されていない

⇒建物の存在は想定されるものの詳細は明らかになっていない

北側の入口である、伝本丸北虎口も一部発掘調査が行われているが具体的なアプローチは不明

③令和5年度発掘調査

- ・伝本丸取付台北半の北側の発掘を行い、平成の調査で確認した礎石列の続きを検出する。また、昭和の石垣修理の内容を再確認

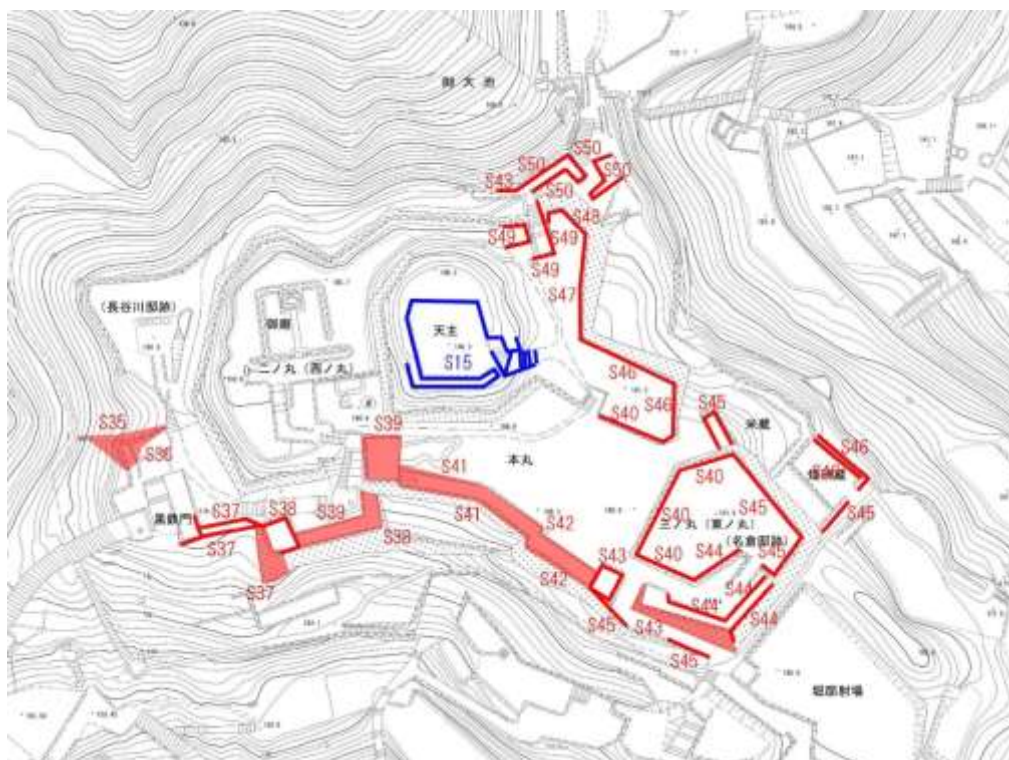


図3 昭和の石垣修理箇所図

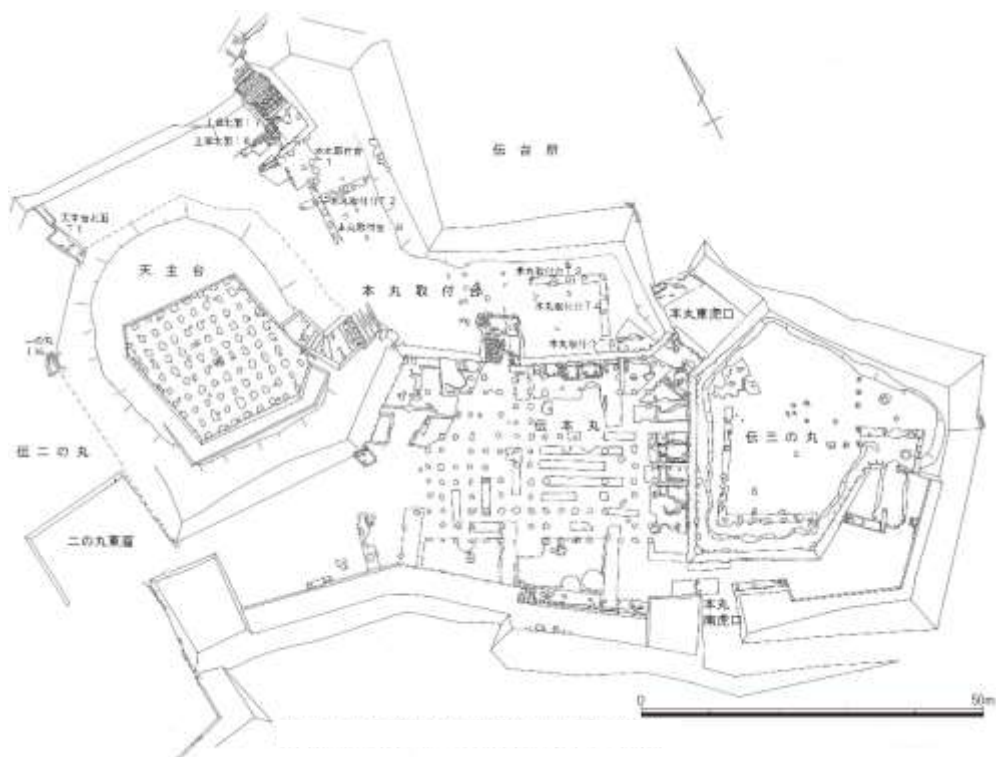


図4 発掘調査位置図

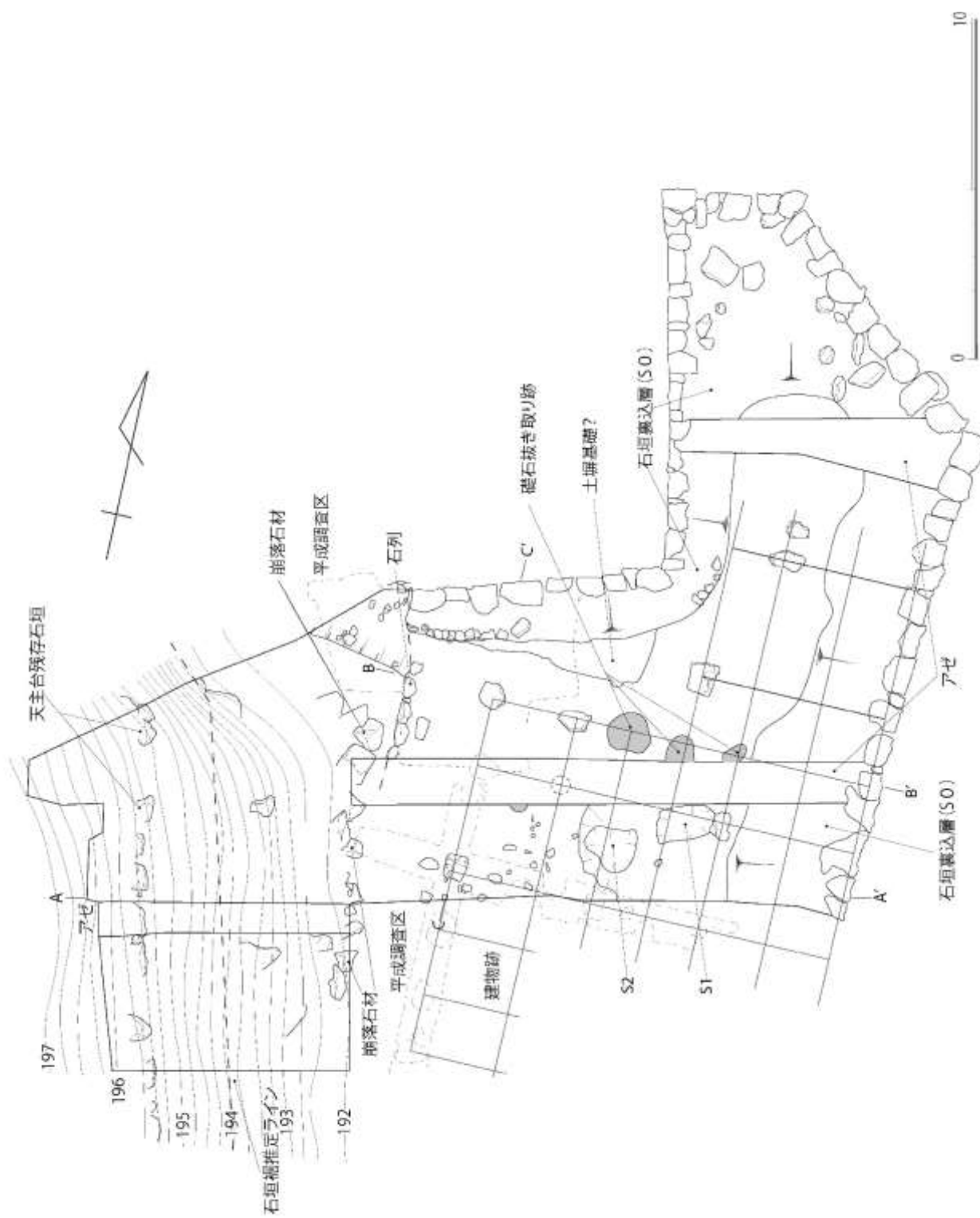


図5 令和5年度遺構平面図

(3) 令和6年度発掘調査

①概要

- ・調査期間 令和6年8月1日～
- ・調査箇所 特別史跡安土城跡天主台周辺地区
天主台東面・北東面、本丸取付台中央部
(東近江市南須田町、近江八幡市安土町下豊浦)
- ・調査面積 456㎡

②天主台について

- ・残存天端：昨年度と同様に、一定の高さで1石から3石分の石垣を検出
- ・崩落斜面：天主台石垣の築石と裏込石からなる石垣崩落層を検出

③伝本丸取付台

- ・石垣修理に関する遺構：石垣の周囲では、昭和40年代に行われた石垣修理の際に積み直されたと考えられる石垣裏込層(SO)が確認された。その周囲で石垣修理に伴う土坑を検出した。
- ・建物跡：昨年度に検出した礎石列を拡張するかたちで検出。礎石の間隔は6尺5寸が基準となる。一部では周囲より巨大な礎石をもちいる部分も確認されている。
- ・石列：礎石列の南側で石列を確認した。昨年度に確認した石列と併せて建物跡を区画しているものと考えられる。
- ・主郭部北虎口：平成の調査の際に確認した階段の踏み石と、溝状の石組を再検出した。

④まとめ

- ・本丸取付台の建物は、建物の南端を示すと考えられる石列を検出したことで、昨年度調査と合わせて建物規模を推定することが可能となりました。また、礎石の柱間寸法が明らかとなったことで内部の空間利用を考える手がかりが得られました。
- ・天主台石垣東面が全域にわたって崩落していることを確認しました。一方で、穴倉へと続く南端の石垣については、昭和の修理工事以前に積み直されている可能性が高いことがわかりました。

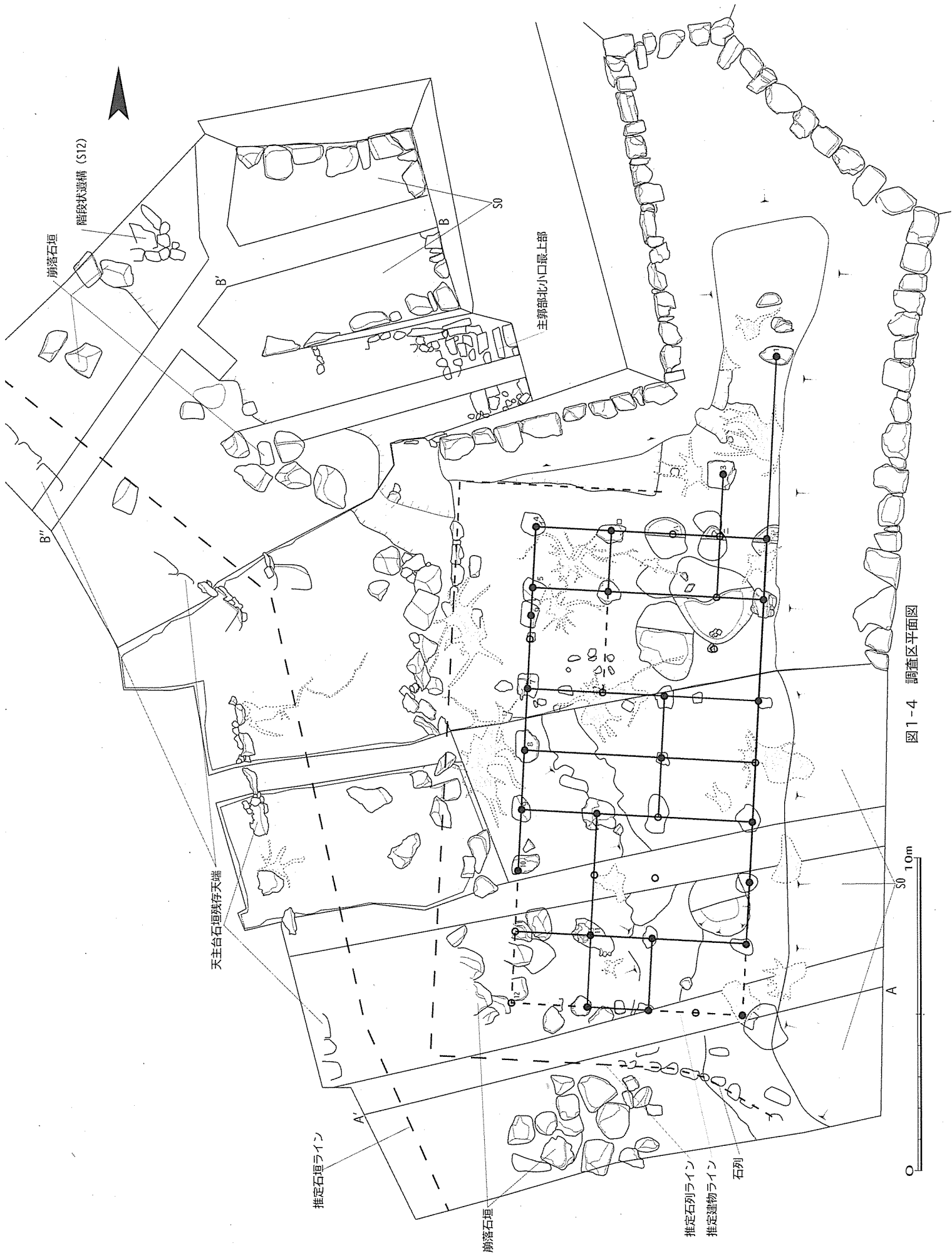


図 1-4 調査区平面図

安土城主郭部の構造

～発掘調査から見てきたこと～

2025. 2. 24 「幻の安土城」復元プロジェクト・歴史セミナー

令和6年度特別史跡安土城跡発掘調査成果報告会

滋賀県文化スポーツ部文化財保護課 岩橋隆浩

はじめにー本日の構成とねらいー

- ◎安土城の主郭部とはどのような場所かを知る
- ◎安土城主郭部の発掘調査成果を見る
- ◎発掘調査成果などから主郭部を考える
- ◎これからの課題は何かを知る

1. 安土城の主郭部とは

◎用語としての「主郭」

主郭・・・城の中心的な郭

◎その位置

安土城内での位置

安土城の中でもっとも標高の高いところ

城内の最高所である天主台を中心とした郭群

天主台・伝二の丸・伝三の丸・本丸取付台・伝本丸・伝長谷川邸跡・二の丸南帯郭

二の丸東溜・三の丸東溜・（伝台所・伝米蔵）

主要城内道が集まる所

大手道・百々橋道・七曲道・搦手道

◎その特徴

4つの門で閉じられた空間

黒金門（主郭部西虎口）・主郭部北虎口・本丸南虎口・本丸北東虎口

5つの高さで構成された郭群

①天主台

②伝二の丸・本丸取付台・伝三の丸

③伝本丸・二の丸東溜・三の丸東溜

④伝長谷川邸跡・（伝台所・伝米蔵）・・・伝煙硝蔵は??

⑤二の丸南帯郭（黒金門から二の丸下の通路となっている部分）

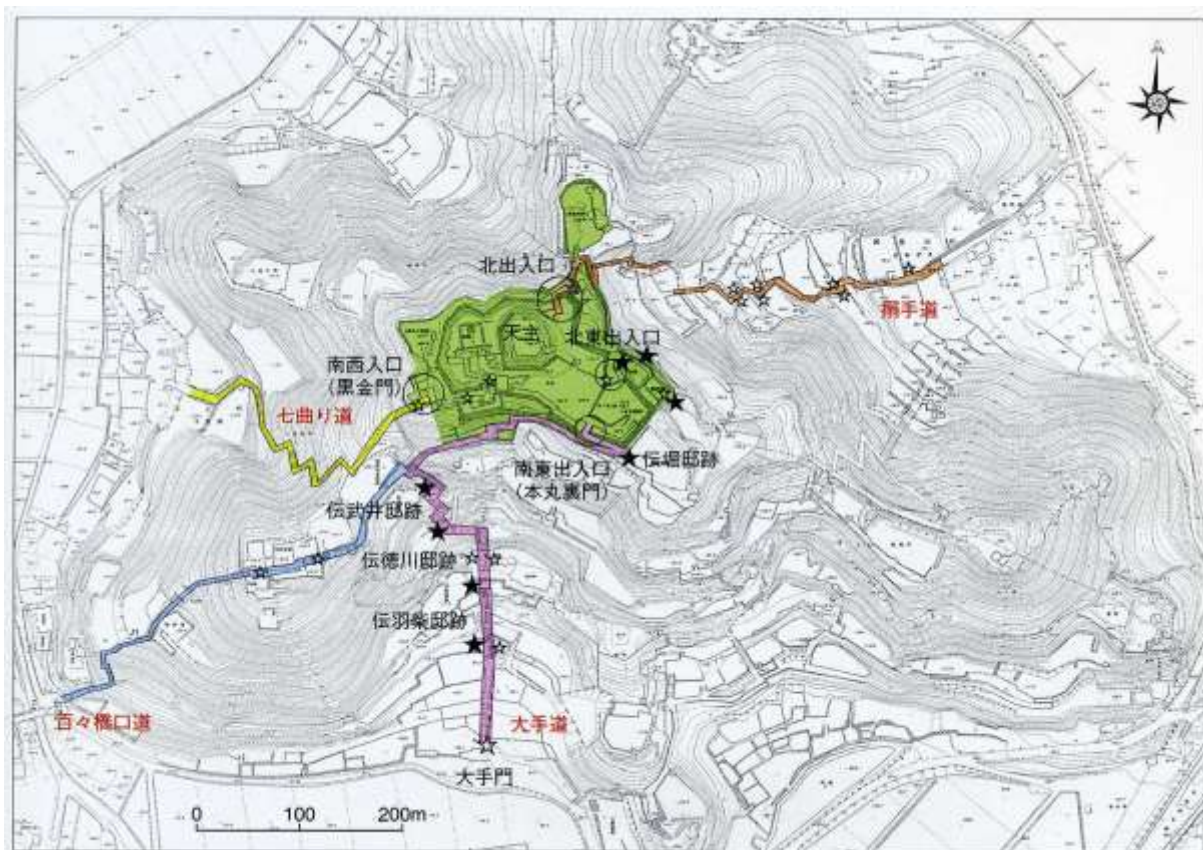
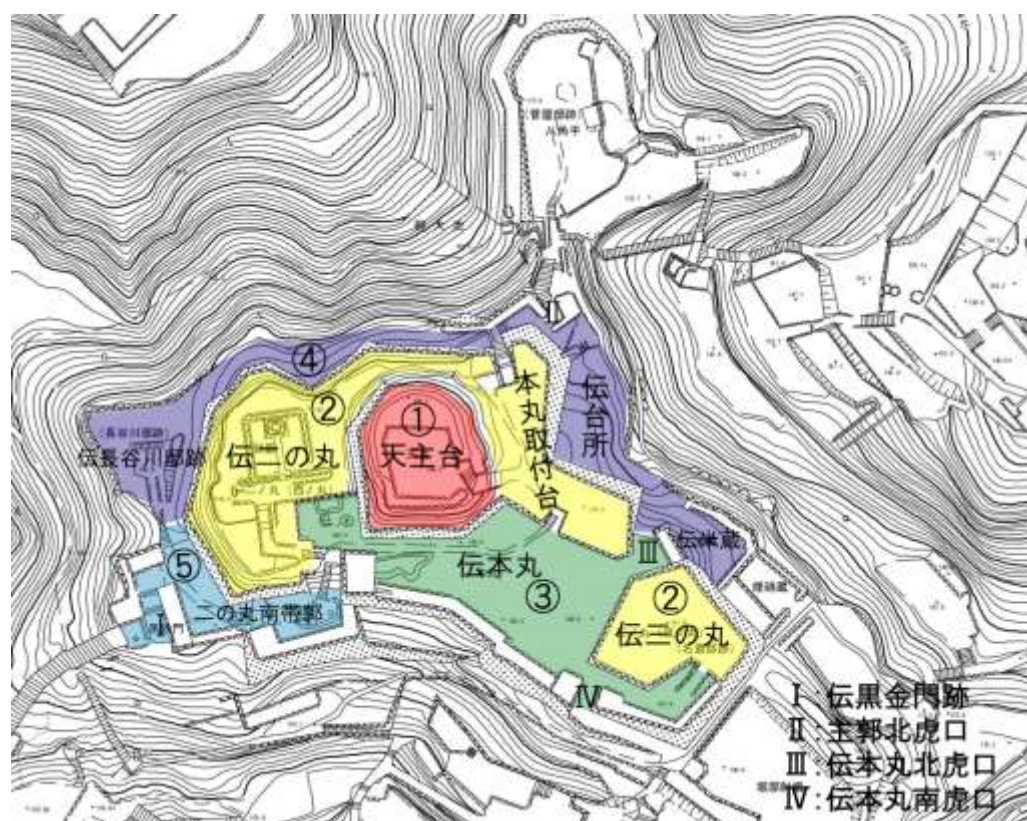


図11 主郭部と城内道



PL1 上：安土城主郭部と城内道（『安土城 1999』より転載）

下：安土城主郭部における各郭の高さ関係

2. 安土城主郭部での発掘調査

◎その歴史と事業の概要

①昭和初期の環境整備

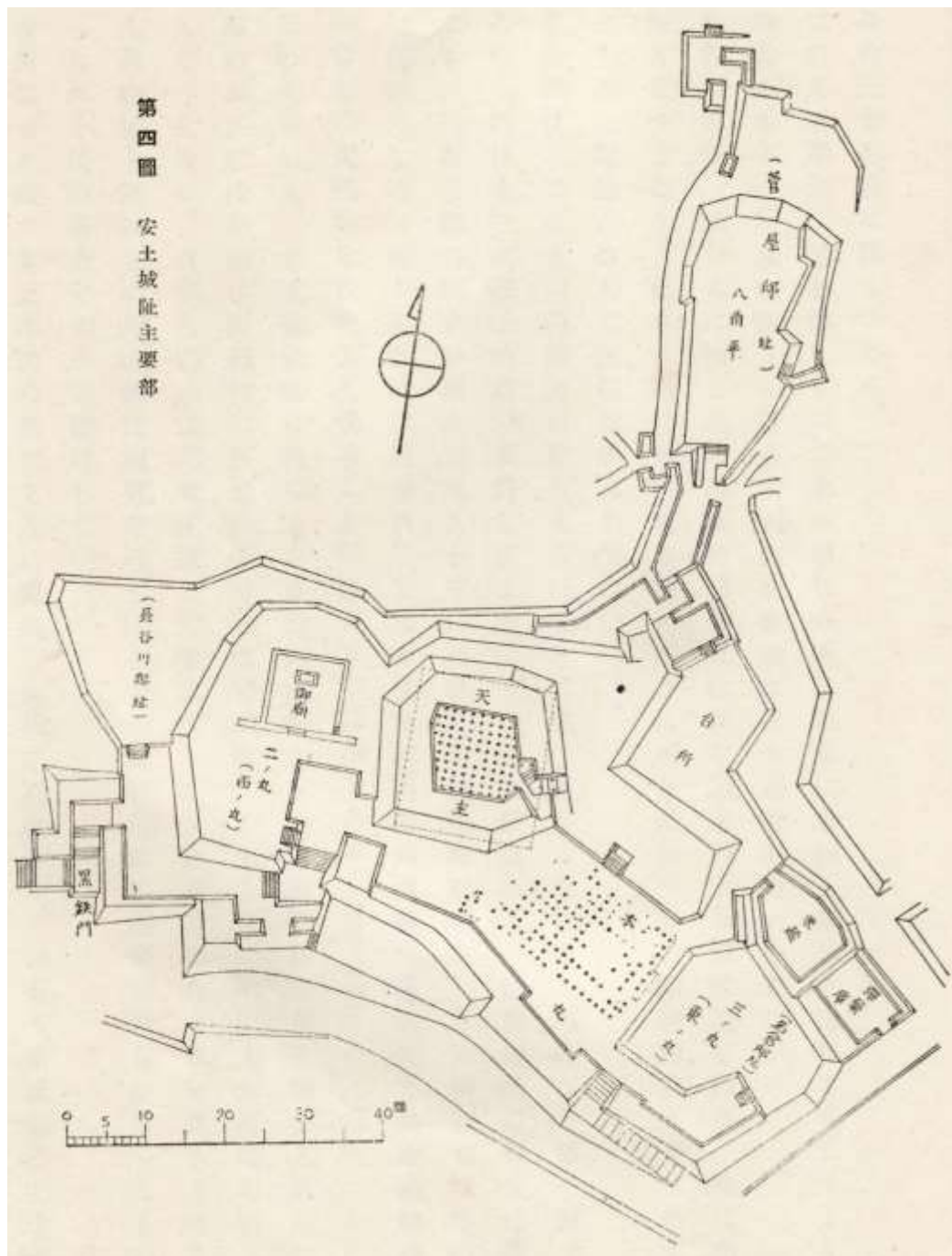
安土保勝会が実施した環境整備事業

園路の整備（百々橋道など）や案内石柱の設置

①戦前の発掘調査

天主台と伝本丸の発掘調査

調査後に環境整備・・・天主台と伝本丸は現在見ている姿になった



PL 2 昭和 15～16 年度の主郭部平面図（『滋賀縣史蹟調査報告第十一冊(安土城址)』より転載）

②昭和 40 年代の環境整備

主郭部での石垣修理とそれに伴う発掘⇒記録が公表されていない部分が多い
この時に多くの石垣が修理されている（天主台と二の丸には修理記録がない）
⇒崩落していた石垣を元に近い高さまで積み直し

③平成の発掘調査

城内主要遺構確認調査

主郭部とその周辺での確認調査

⇒遺構の内容などを確認するための小規模な発掘調査

主郭部の調査実施箇所

天主台・伝三の丸・本丸取付台・伝本丸・伝長谷川邸跡

伝台所・伝米蔵・（伝煙硝蔵）

黒金門跡～二の門推定地付近 ⇒ 二の丸南帯郭

三の門推定地（本丸西虎口）付近・主郭部北虎口・伝本丸北東虎口・伝本丸南虎口

④令和の発掘調査

天主台周辺の環境整備に伴う発掘調査

⇒令和 5 年度～ 6 年度は天主台東面～北東面と本丸取付台北半部

◎調査成果の概要

①天主台

天主台穴蔵床面の状況と穴蔵への通路の状況が明らかに

天主台の残存状況と崩落の状況が明らかに

②本丸取付台

東半部の建物の一部が明らかに

北半部の建物のおおよその規模が判明

③伝三の丸・三の丸東溜

伝三の丸では建物礎石を検出

⇒郭内には数棟の建物があると推定⇒礎石の分布より

三の丸東溜のスロープは後補のものだと判明

⇒厚い瓦片の堆積の下で建物礎石を検出

④伝本丸～二の丸東溜

中心部分の建物の規模などがほぼ確定⇒建物の間取りの復元

中心建物周囲には諸施設が存在⇒水溜（石枳・石製容器）・庭・溝など

中心建物の西にも建物礎石

二の丸東溜では火災で焼失した建物跡を検出

⑤伝台所・伝米蔵

伝台所：カマドなどを確認

伝米蔵：多量の瓦片の堆積 建物礎石を確認 金箔鯰瓦が出土

⑥伝長谷川邸跡

建物礎石を確認 詳細は不明

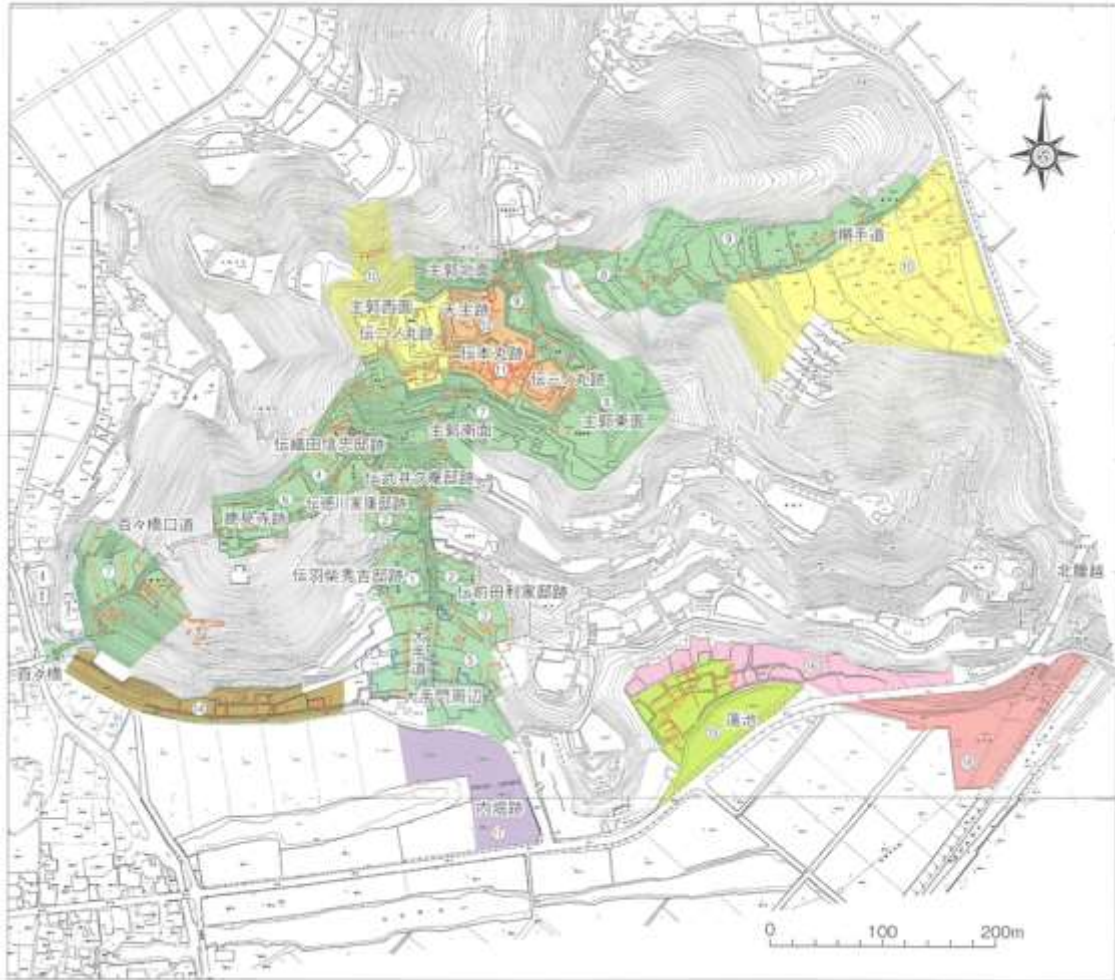
⑦各虎口

黒金門・二の門・三の門：礎石確認 門扉の位置を推定できる

本丸南虎口：礎石確認 2ないし3つの門で閉じる空間か

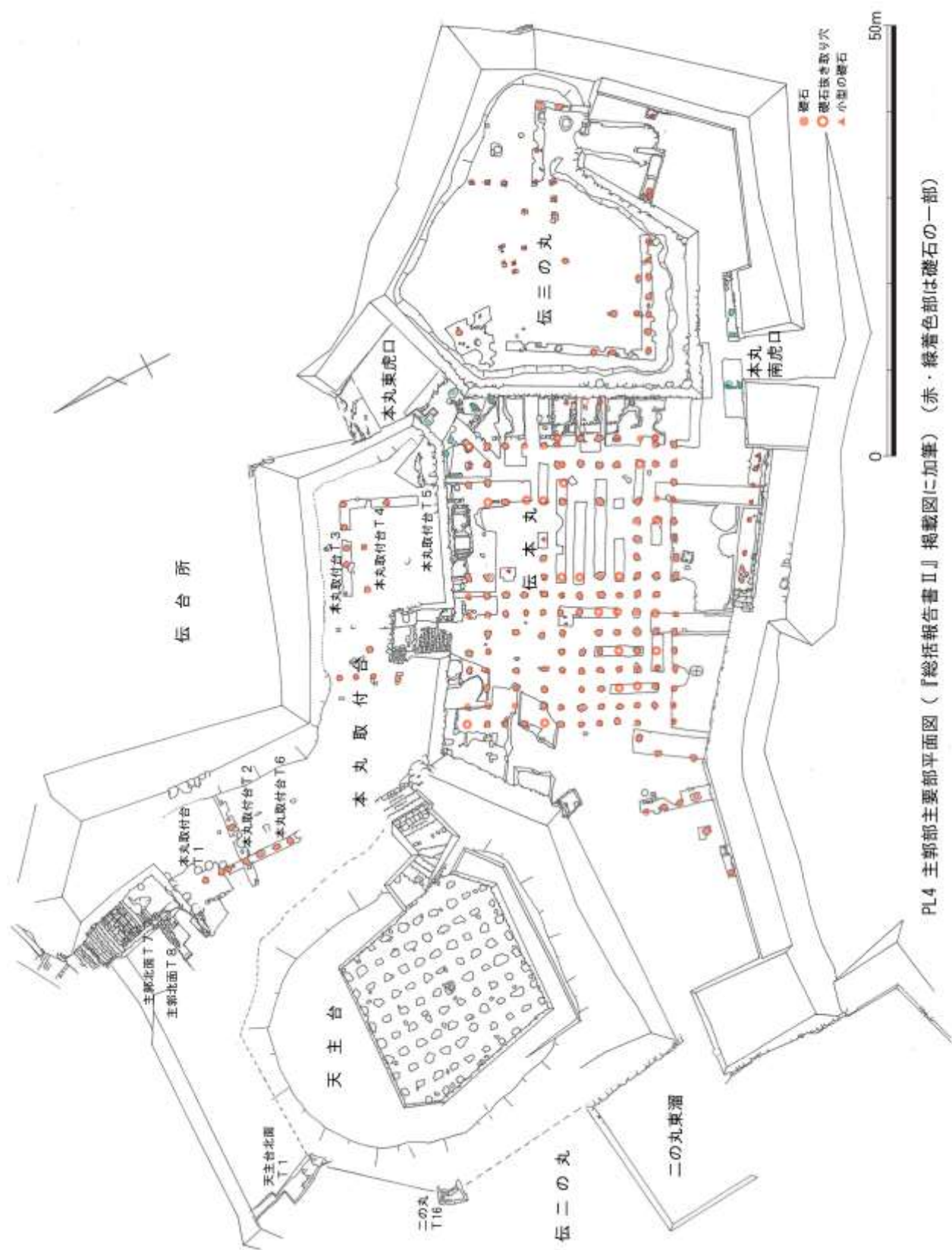
本丸北東虎口：礎石と石段を確認

主郭北虎口：折れを多用した通路に礎石 伝台所とは埋門で接続



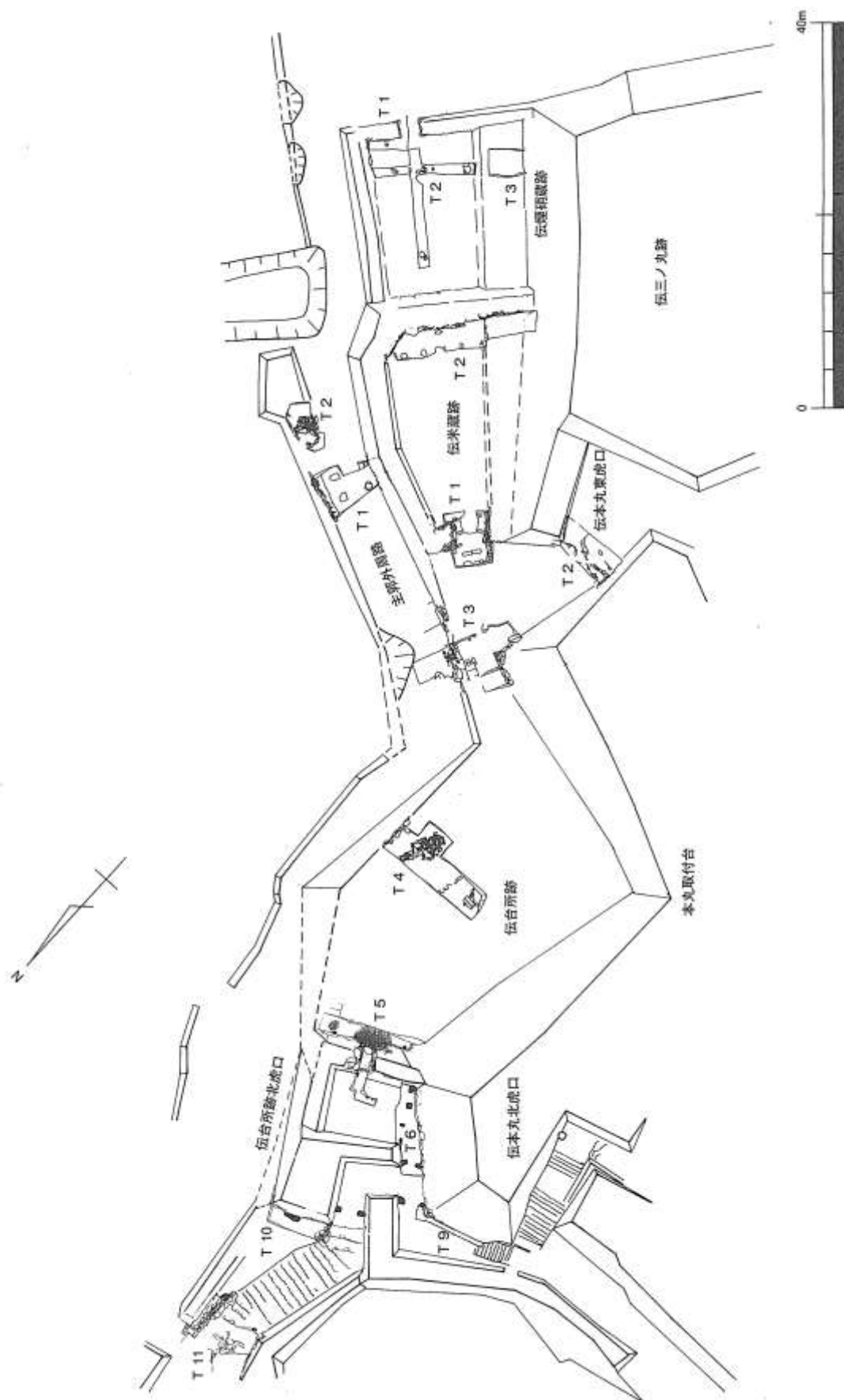
PL 3 平成の発掘調査年次別実施箇所（丸数字は調査年度）

『発掘調査 20 年の記録 安土 信長の城と城下町』より転載

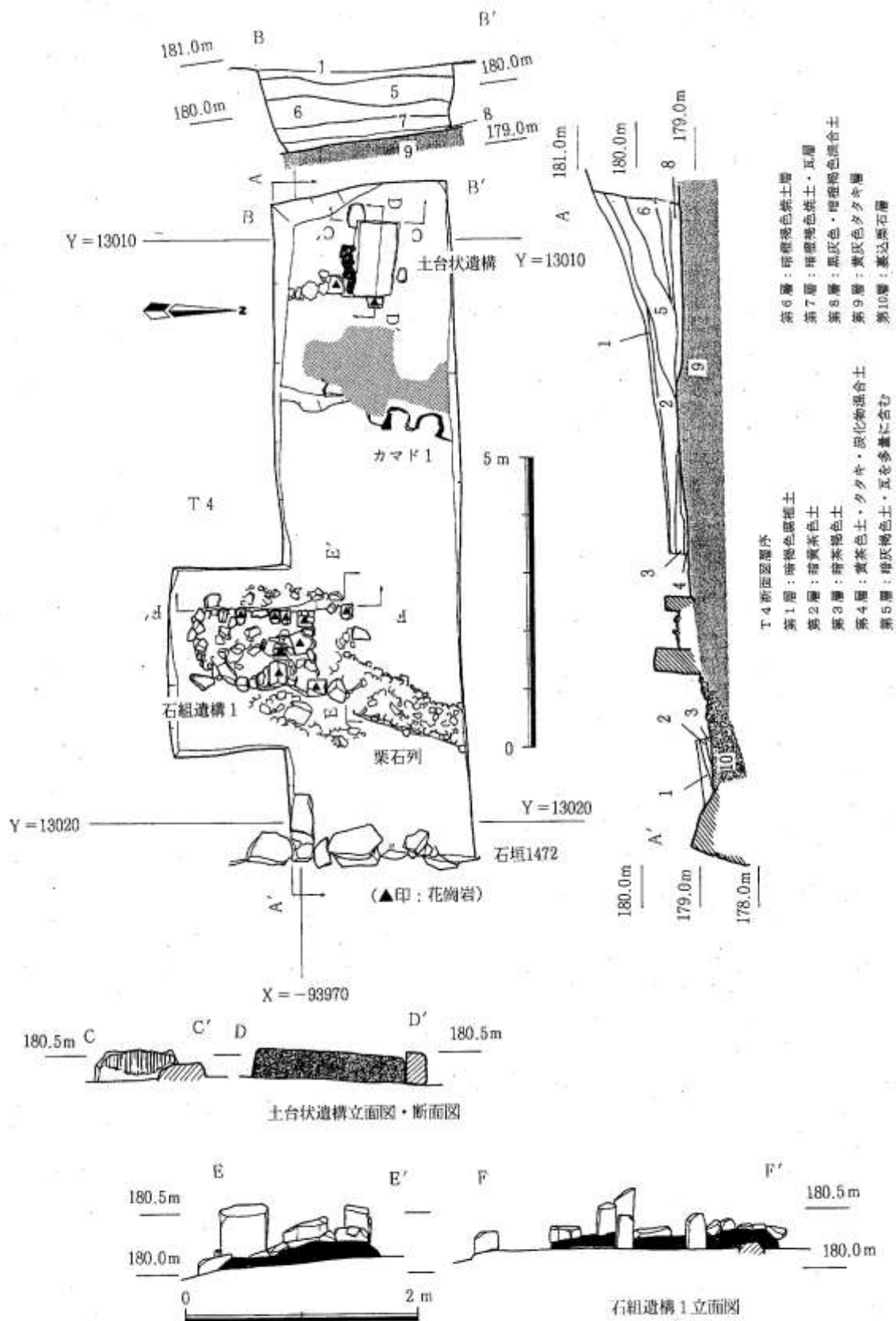


PL4 主郭部主要部平面図（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）（赤・緑着色部は礎石の一部）

PL 4 主郭部主要部平面図（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）（赤・緑着色部は礎石の一部）

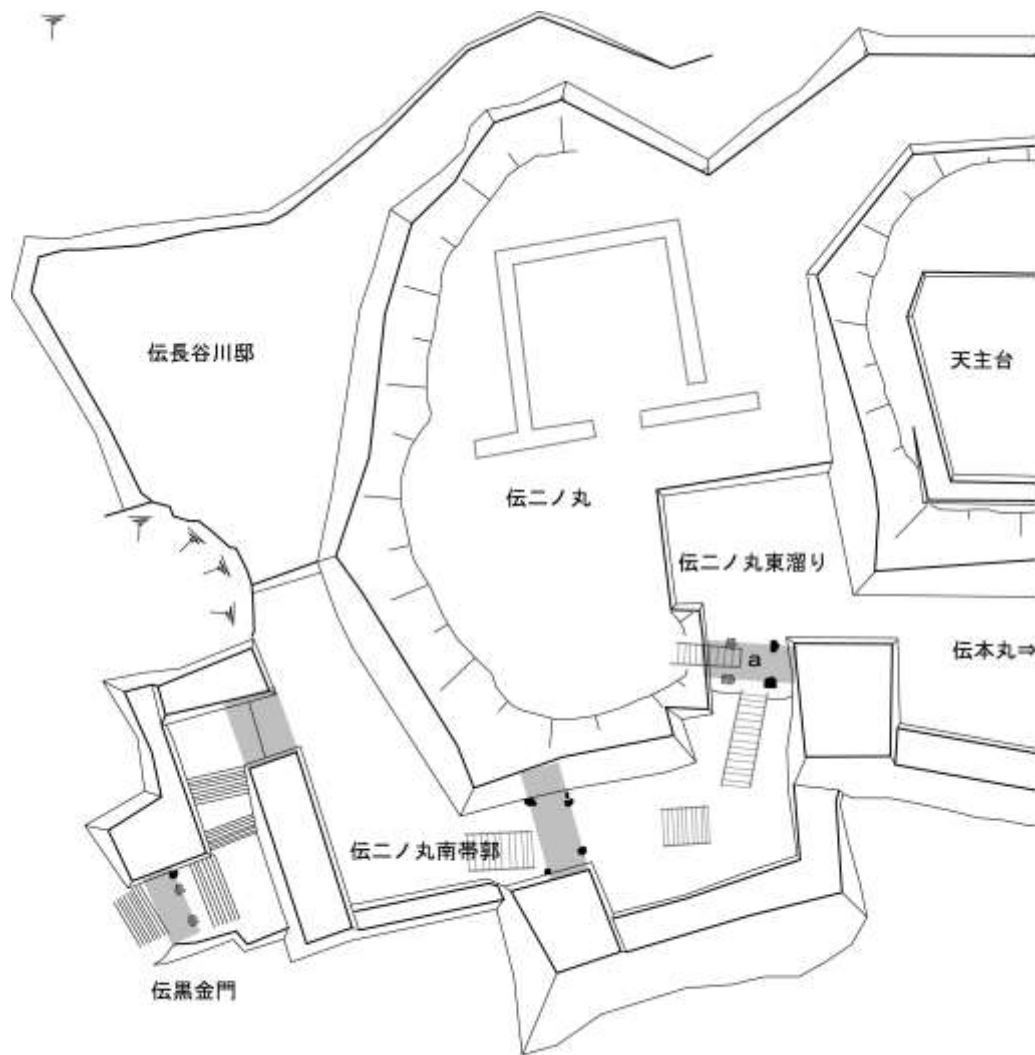


PL6 主郭北～東面平面図（『総括報告書Ⅱ』より転載）



第10図 主郭北面T4遺構平面図・断面図、遺構詳細図

PL7 伝台所跡詳細図（『発掘調査報告書9』より転載）



PL 9 主郭部西虎口付近平面図（網掛け部は門推定位置）（『安土 信長の城と城下町』より転載）

3. 発掘調査成果などから主郭部を考える

◎建物の方位に関すること（特に天主台と本丸周辺について）

①天主と同じ向きのもの

（仮）本丸取付台北建物

②本丸中心建物と同じ向きのもの

（仮）本丸取付台東建物 三の丸の建物群 三の丸東溜建物

③それ以外

本丸西建物 二の丸東溜建物 各虎口の門

※①と②で何が考えられる？

◎上下の郭のつながり（特に天主台と本丸周辺について）

※どうやって隣接する郭間を行き来していたのか？

①二の丸と二の丸東溜

②三の丸と三の丸東溜

※①と②で現在見えている石段やスロープは当時のものなのか？

③本丸取付台と本丸

※石段で接続している

④天主と本丸取付台

※石段で接続している

※この二つのことを考え合わせると・・・

◎各郭の役割（あくまでも大いなる推測）

①天主台

天主が建っていた場所（確定）

②本丸取付台

天主と本丸中心建物をつなぐ建物？

③伝二の丸

内容はよくわからない 信長の御座所？？？

④伝三の丸

複数の建物が存在 小型礎石の小規模な建物と茶釜などの出土遺物 遊びの空間？

⑤伝本丸

中心建物は行幸御殿？

⑥二の丸東溜・三の丸東溜

建物が存在⇒単なる溜状の空間ではない

それぞれから二の丸・三の丸へ上がるための建物があったのでは？

⑦伝台所

炊事関連の遺構あり・・・伝承どおりか

⑧伝米蔵

詳細は不明

⑨八角平

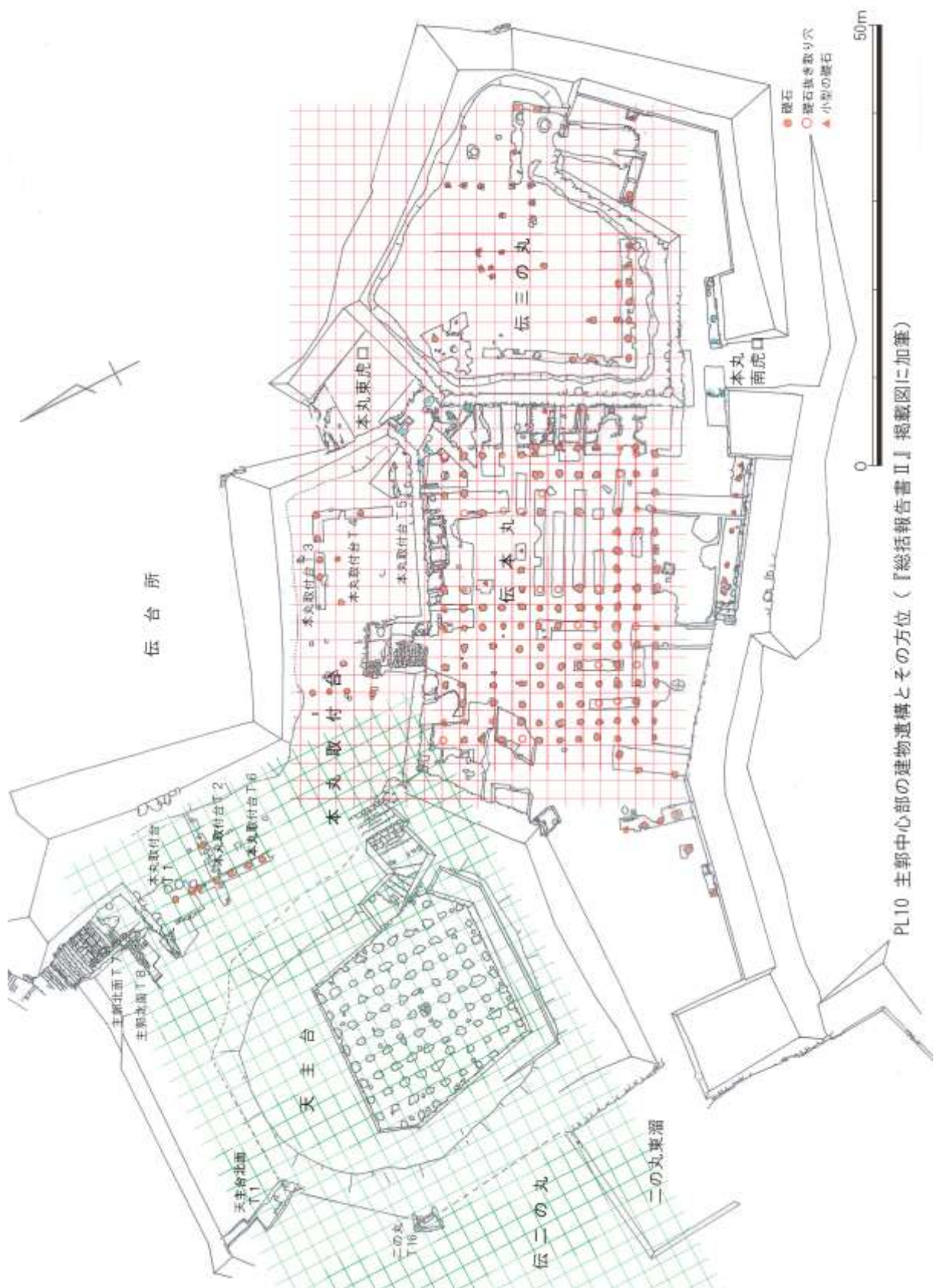
主郭部の北に隣接する曲輪 「出丸」的な郭か？

◎『信長公記』から主郭部を考える

天正十年正月朔日の記述より

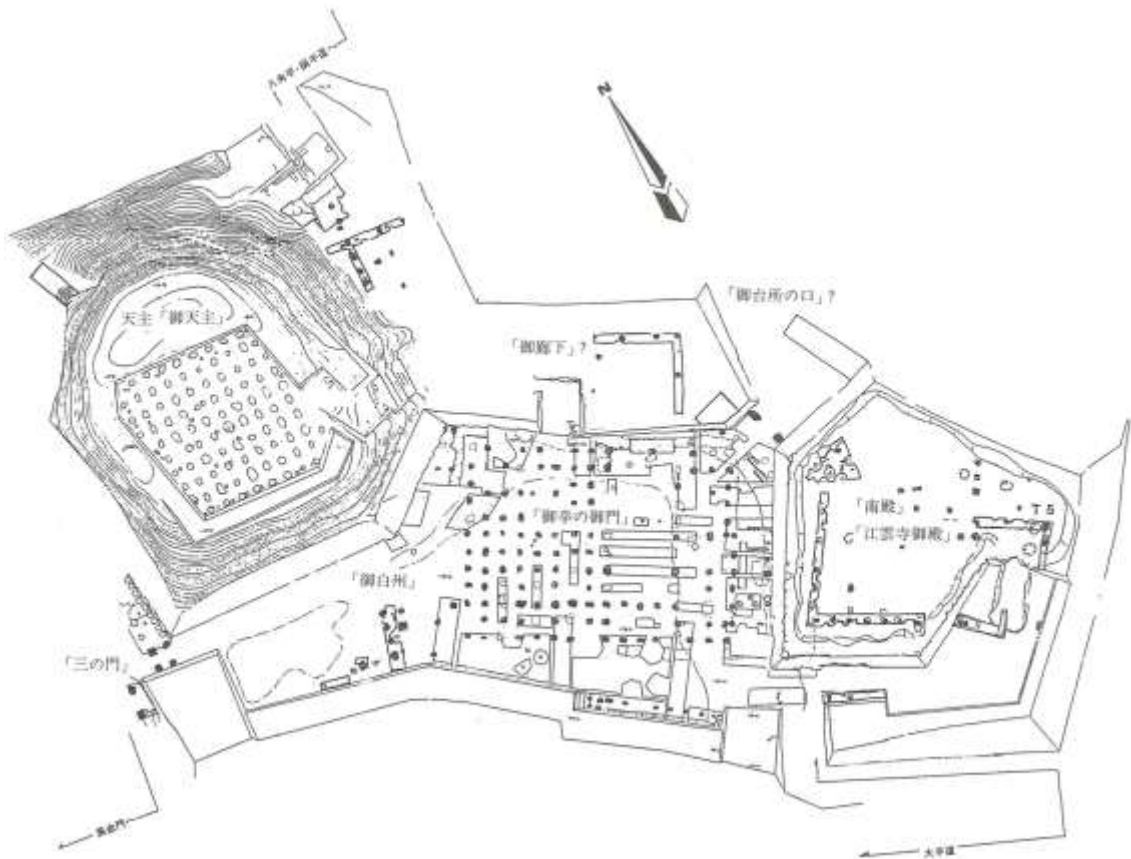
解釈はなかなか難しい

いろいろな人の色々な解釈がある

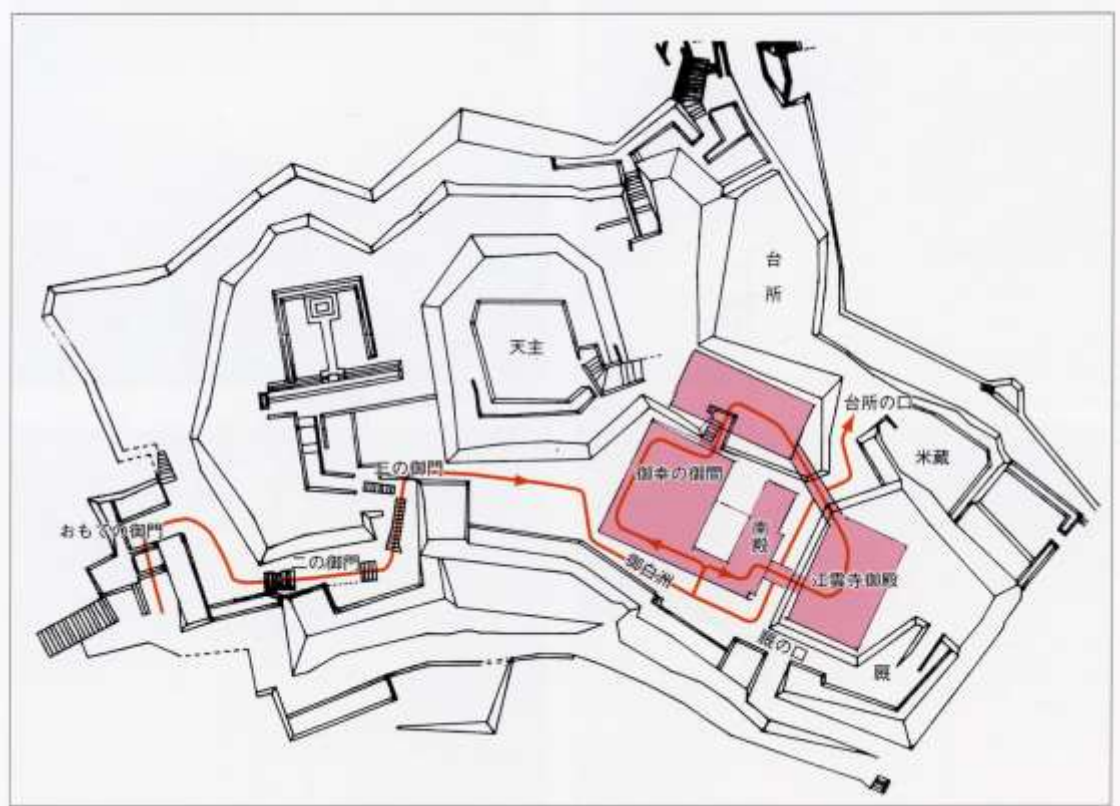


PL10 主郭中心部の建物遺構とその方位（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）

PL10 主郭中心部の建物遺構とその方位（『総括報告書Ⅱ』掲載図に加筆）



第6図 各遺構と文献資料の対比案



PL11 『信長公記』から見た各郭の建物の解釈

上：「安土城本丸の礎石建物」（『織豊城郭第8号』 下：『安土城を掘る』より転載）

4. これからの課題

◎遺構の確実な調査

中途半端な調査にならないように・・・

有無をはっきりとさせる

特に建物は礎石の有無で間取りや規模が変わってくる

◎建物が指向する方位の境界部分はどうなっているのかの解明

例：（仮）本丸取付台北建物と（仮）本丸取付台東建物の間の空間

⇒ 建物があるのか？ 通路なのか？

◎郭を越えた建物の検討

郭内で本当に建物は収まるのか？

郭内で完結する建物とそうでは無い建物がある事を認識する必要がある

ただし・・・

上下の郭の建物の接続を考える場合に必要な情報が失われている場合が多い

⇒石垣天端付近の遺構が石垣の崩落等によって失われている

◎建物遺構を考えるには・・・

建物敷地の境界があるはず⇒雨仕舞をしていると考えられるから

これを見つけることによって建物の規模や境界がより明確に

⇒これまで意外と確認できていない

確認例：本丸中心建物の北・東・南側

（仮）本丸取付台北建物の西・南・北側??

引用文献

本資料に使用した図および写真の出展元は以下のとおりである。

『安土城 1999』＝『安土城・1999』

『安土城を掘る』＝『発掘調査 15 年の軌跡 図説安土城を掘る』

『安土 信長の城と城下町』＝『発掘調査 20 年の記録 安土 信長の城と城下町』

『発掘調査報告書 8』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 8 搦手道上半部・主郭東面の調査』

『発掘調査報告書 9』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 9 主郭北面・搦手道の調査』

『発掘調査報告書 10』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告 10 主郭西面・搦手道湖辺部の調査』

『総括報告書Ⅱ』＝『特別史跡安土城跡発掘調査報告書Ⅱ 主郭、搦手道の調査および総括』